



イタリアンワイン&カフェレストラン

サイゼリヤ

株式会社サイゼリヤ

国内約800店舗のレストランチェーンが
会計業務効率化と内部統制強化を同時に実現した裏側

株式会社サイゼリヤは、本格的なイタリア料理をリーズナブルな価格で提供するイタリアンレストラン『サイゼリヤ』などを、国内約800店舗にわたって展開している。サイゼリヤの経営理念は「日々の価値ある食事の提案と挑戦」。できるだけたくさんのお客様を喜ばせたい、という思いのもと、海外へは2003年に上海に1号店を出店し、現在では10店舗を超えるまでとなった。

素材の調達から料理の提供までを一貫して自社で行う“製造直販・直営”にこだわる同社だが、このこだわりを目的として、徹底して効率性を追及するところに強みがあると言える。これは、企業活動の根幹をなす、会計システムにも反映されている。この期待に応えるために導入されたのが、クレオの『ZeeM 会計』。業務標準化に対応できる柔軟性、負荷分散と両立できる内部統制対応などが評価された。同社の総務部 財務担当部長 潮田淳史氏にお話を伺った。

「サイゼリヤは、国内約800店のイタリア料理レストランチェーン『サイゼリヤ』を展開しています。オリーブやトマトは本場イタリアから、牛肉はオーストラリアの自社ファクトリーから直輸入するなど、世界規模の仕入体制を確立しています。また、苗の育成から収穫、そして素材の調達から料理の提供までを一貫して自社で行う“製造直販・直営”のスタイルにこだわり持っています。

こうしたこだわりを強みとして発揮するために、つねづね心がけているのは“効率性の追求”です。

食材の調達から提供まであらゆる部分で言えることですが、効率化がきちんと徹底されていれば、それだけコストを浮かせることができ、ひいてはお客様に低価格で商品をご提供することができます。」(潮田氏)

■効率性の追求は、管理業務にも及ぶ

効率化の徹底は、管理部門の業務にとっても重要だと、潮田氏は話す。以前は、店舗ではお客様対応に最大限の時間を使い、データ入力作業はできるだけ管理本部で行うなど、本部はサポートに徹するべきと考えていたという。

「業務の仕組み作りは、企業活動の規模によっても違ってきます。店舗数が



埼玉県吉川市の本社工場

300～400ぐらいまでなら、紙ベースの業務であっても管理本部が一括して処理できるものでした。しかし、さらなる成長と店舗数の拡大を目指すのであれば、本部集中型から拠点分散処理型へと業務の構造を変える必要がありました。各店で行うわずかな作業でも、それを紙ベースで管理本部に集めると、膨大な工数になるからです。

たとえば、毎月各店で1-2名のアルバイトの増減があり、その登録作業は毎月約1000名分になります。それを本部で集中して行うと膨大な作業になりますし、二重転記によるミスも発生しやすくなります。それをチェックする工数も必要になります。」(潮田氏)

こういった業務の改善にはシステム化や分散化が効果的だが、同社では、その際にも効率性を徹底して考える。システム化することで定常業務を自動化できるし、拠点への分散化を進めることで、業務の負荷分散を実現できるが、それが十分に効率的であるか検討する必要があるという。

Company Profile

株式会社サイゼリヤ

本社 埼玉県吉川市旭2番地5

設立 1973年5月1日

資本金 86億1250万円

Web <http://www.saizeriya.co.jp/>

※ 内容は2009年6月の取材によるものです。

組織の柔軟性を維持していくためには、業務の効率化に合わせて、標準化を実現することが欠かせないと考えています。

「たとえば、システム化を進めるとしても、使い勝手がいいからと安易に考えると、業務内容ごとに専用システムを用意しがちですね。店舗であれば、勤怠管理用の端末をおき、材料などの発注用の端末をおきという具合に、同じようなシステムが狭いバックオフィスにあふれかえることになります。

当社の場合は、そういったシステムを標準化して対応できないかと考えます。”どうせ中身はWindowsパソコンなんだから、全部POS端末でできないか”といった具合です。実際に、当社では店舗POSをお客様の精算だけでなく、従業員の勤怠管理、給与明細の印刷など様々な用途で利用しています。」(潮田氏)

このような同社では、業務システム刷新の一環として、次の課題を掲げて、会計システムの見直しを行った。効率性を追求するという考え方は、会計業務の改善と、それを支援する会計システムの導入にも影響を与えている。

・業務標準化／平準化の徹底 ・内部統制対応の強化

そこで採用されたのがクレオの『ZeeM 会計』である。業務標準化に対応できる柔軟性、負荷分散と両立できる内部統制対応などが特に評価された。

■標準化／平準化の徹底により、業務の属人化を撤廃

会計業務の効率向上のためには、まず業務自体の処理能力の向上が欠かせない。サイゼリヤでは、会計業務の処理スピード向上のために、業務の標準化／平準化を徹底し、会計システムに不慣れなメンバーであっても、特別なトレーニングなどはほとんど必要せず、業務支援を行う環境を整えた。

そこで活躍したのが、ZeeM 会計のマイメニュー設定機能である。この機能では、操作メニューの表示名・順序・実行内容などをお客様が業務に合わせて自由に設定できる。「支払依頼伝票入力」や「請求依頼伝票入力」といった作業ごとに、操作メニューを用意しておけば、そのメニューに従っていくだけで、作業を進めることができる。

「担当者が頻繁に使う項目をショートカットとして設定しておく、という運用をしているようです。細かな部分かもしれませんが、業務手順に不慣れなスタッフを助けてくれる機能として、重宝していると聞いています。勝手の分かっているベテランスタッフにとって使いやすいのはもちろんですが、着任間もないスタッフにとっても使いやすいのはありがたいですね。私自身も決して会計のプロではないのですが、ときには業務を手伝ったりすることも

あります。それでも問題なく操作できます。また、特定のスタッフでないと対応できないという業務もありましたが、ZeeM 会計を活用することで、新人スタッフや不慣れなスタッフにも、すぐに仕事を振れるようになりました。

従来の会計・人事給与の方式では、誰が何をいつどのように処理していたのが不明確でした。少人数であったがゆえの属人的業務が生まれるようになり、その人がいないと、結果的に業務が滞ってしまうという可能性がありました。ですが、作業手順のほか、承認ルートもZeeMに登録さえすれば、人が入れ替わっても業務を行えるようになります。作業の『標準化』『見える化』が進んだおかげで、内部統制の強化を進めることができました。」(潮田氏)

■オペレータが増えるリスクに、内部統制の強化で対応を

一方で、誰もが操作しやすい会計システムであった場合、今度はセキュリティの確保が課題になる。取り扱う情報は、会社のナマの財務情報であるだけに、機密度が高いレベルに設定されているものも多い。また、メニューが設定されているとはいえ、人間が操作する以上は常にミス危険がつきまとうことになる。

これに対してZeeM 会計では、ログイ

ンIDごとにアクセス権限を設定でき、特定のIDを持つ者以外はアクセスできない領域を設けるといったシステム側での設定ができる。また、いつ誰がどのような作業を実施したのか、どのような情報を入力したのかを記録しておく、証跡管理機能を備えている。これらの機能により、セキュリティを確保しながら、操作が不慣れな人であっても、より確実に業務を遂行できるのだ。

また、今回のシステム導入に際し、サイゼリヤは自社仕様へのカスタマイズを行っていない。その理由もまた“標準化”にあるという。自社業務に特化した“作りこみ”や“アドオン”は、時間とコストさえかければいくらでもできる

ものだ。だが、それはともすると幅広い発展のための“標準化”を妨げることになりかねないと、潮田氏は指摘する。

「日本の外食産業は寡占の時代を迎えると考えています。戦略としての合併や子会社経営、グループ経営、さらなる海外進出など、さまざまな方向性がありえるでしょう。そうした下地づくりのためにも、“オーソドックスな基幹システム”を運用していきたいと考えています。統合・淘汰の時代こそ、受け入れの広い“標準”が求められるはずですから。」(潮田氏)

最後に潮田氏は、効率性と標準化

のバランス関係について次のように述べた。

「当社の成長の秘訣は、徹底した効率性の追及にあります。しかし、効率性を追求する過程で、業務が属人化してしまう場合があります。極端なことを言えば、現在数名の担当者がいるところをもっと少なくすることも可能だと思います。でも、それだといざというときに困ってしまいます。業務効率は向上できても、柔軟性は失われてしまいます。

組織の柔軟性を維持していくためには、業務の効率化に合わせて、標準化を実現することが欠かせないと考えています。」(潮田氏)

サイゼリヤ

会計業務の効率向上策

● 業務の拠点分散処理を実現

さらなる成長を可能とするため、業務構造を、本部集中型から拠点処理型へと移行し、業務負荷を分散。

● 業務標準化／平準化の徹底

ZeeM 会計のマイメニュー設定機能で、操作メニューをカスタマイズ。業務の属人化を解消し、会計システムに不慣れなメンバーでも、業務支援が行える環境を構築。

● 内部統制対応の強化

アクセス権限設定によって、特定のIDを持つ者のみが利用可能となる領域を設定。証跡管理機能で、利用者のログを保存。内部統制の強化を実現。

ZeeM for your smile ～お客様の笑顔のために～

企業を取り巻く環境変化のスピードは近年著しく早まっています。特に法改正といった大きなインパクトに対応しつつ、より付加価値を生み出すことを求めらる人事部門や経理部門にとって、ルーティン業務の効率化は必須と言えます。ZeeM は現場の業務効率とデータ活用による付加価値を追求していただける業務パッケージとして、人事部門・経理部門の業務を支援して参ります。



ZeeMは1993年から約2000社の導入実績を誇る人事給与システムと会計システムを核としたトータル業務ソリューションです。業務アウトソーシングからクラウドを活用したシステムアウトソーシングまで、幅広く人事部門様・経理部門様をサポートいたします。

ZeeMのソリューションマップ



ZeeMは顧客ロイヤルティ調査で最高評価を獲得しています

矢野経済研究所【調査概要】

矢野経済研究所では基幹システムの利用動向調査を実施、評価指標としてNPS※を用い、顧客ロイヤルティの測定を行いました。

調査件数：194件（ERPパッケージ利用、人事・給与部門の回答数）

調査方法：記名式郵送アンケート調査

調査条件：

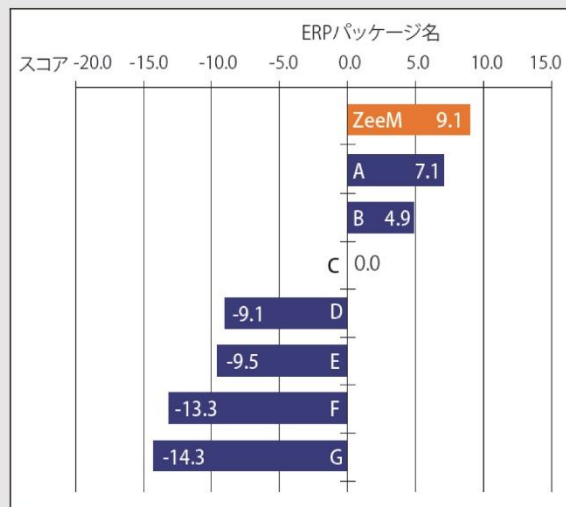
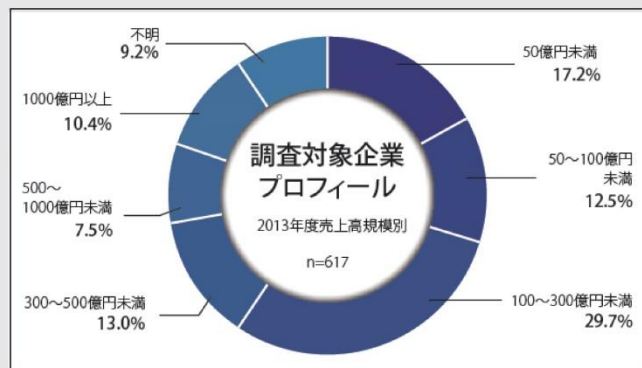
・「人事・給与」「財務・会計」など業務分野ごとに利用しているパッケージのNPSを調査。

・矢野経済研究所が、ERPパッケージ（基幹業務を統合する情報システムを構築するためのパッケージ）と区分している製品を対象とし、一定数（10件）以上の回答数を得た製品間で比較。

※ NPS、Net Promoter、およびNet Promoter ScoreはSatmetrix Systems, Inc., Bain & Company, Fred Reichheldの登録商標です

調査対象：日本国内の民間企業及び自治体

調査期間：2014年7月～2014年10月



お問い合わせ



株式会社クレオ

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-27住友不動産品川ビル12F
URL <https://www.zeem.jp/> TEL 03-5783-3540 FAX 03-5783-3541